

平成20年度 病害虫発生予察情報

発生予報第10号（9月）

平成20年9月5日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	穂いもち	やや少ない
		紋枯病	やや少ない
		白葉枯病	やや少ない
		トビイロウンカ	少ない
		ツマグロヨコバイ	平年並
		斑点米カメムシ類	やや多い
果樹	ダイズ	ハスモンヨトウ	やや少ない
	ナシ	黒斑病	少ない
		黒星病	平年並
		ハダニ類	平年並
		炭疽病	平年並
		うどんこ病	少ない
カキ	カメムシ類	平年並～やや多い	
野菜	キャベツ	黒腐病	平年並
		菌核病	平年並
		アブラムシ類	平年並
	アブラナ科野菜	コナガ	平年並
		アオムシ	平年並
		ハスモンヨトウ	やや少ない

中国地方1か月予報（9月6日～10月5日・広島地方气象台9月5日発表）

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

気温	20%	40%	40%
降水量	40%	30%	30%
日照時間	30%	40%	30%
	低い(少ない)	平年並	高い(多い)

A. 普通作物

1) イネ（主として普通期栽培地帯）

(1) 穂いもち

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①いもち病の伝染源量は平年に比べてやや少ないと推察される。
- ②9月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①現在の発生量は平年に比べてやや少ない。
- ②9月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) 白葉枯病

予報内容

発生地方 県下常習発生地
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①現在の発生量は平年に比べてやや少ない。
- ②9月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 少ない

予報の根拠

- ①予察灯及び粘着誘殺灯での誘殺数は平年に比べて少ない。
- ②9月上旬の巡回調査では、寄生虫数は0頭/25株（平年23.4頭）、発生圃場率は0%（平年:29.9%）で平年に比べて少ない。
- ③9月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ①予察灯での誘殺数は平年に比べてやや少ない。
- ②9月上旬の巡回調査では、寄生虫数は22.5頭/25株（平年72.5頭）、発生圃場率は84.2%（平年75.4%）で平年並みである。
- ③9月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(6) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①9月上旬の巡回調査では、カメムシ類の捕獲数は1.6頭/20回振りで平年並みである。
- ②アカスジカスミカメの予察灯（出雲市）への累積誘殺数は平年に比べて多い。
- ③9月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

2) ダイズ

(1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺累積数は、県東部で平年比18.4%、県西部で71.7%とやや少ない。
- ②8月末現在の巡回調査での本種幼虫による1 a 当たり白変カ所数は0.2カ所（平年0.9カ所）でやや少ない。
- ③9月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県下ナシ（二十世紀）栽培地帯
発生量 少ない

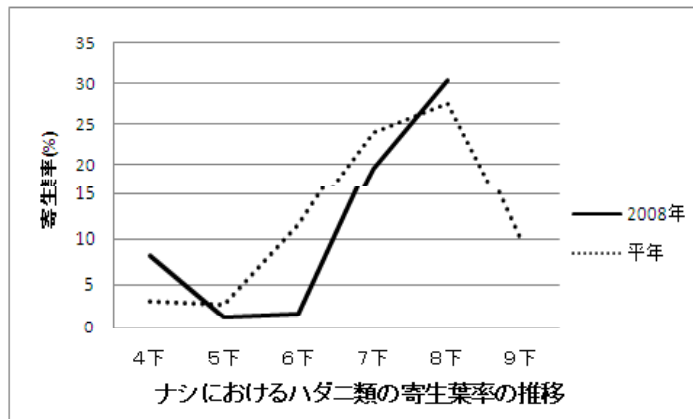
予報の根拠

- ①8月末現在、発病葉率は13.0%（平年25.0%）で平年に比べて少ない。
- ②9月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

- 発生地方 県下ナシ栽培地帯
発生量 平年並
予報の根拠
① 8月末現在、発病葉率は0.06%（平年0.29%）で平年並みである。
② 9月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。
- (3) ハダニ類
予報内容
発生地方 県下ナシ栽培地帯
発生量 平年並
予報の根拠
① 8月末現在、発生量は寄生葉率30.8%（平年27.6%）で平年並みである。
② 9月の気象は本種の発生にやや助長的である。



2) カキ

- (1) 炭疽病
予報内容
発生地方 県下カキ（富有など）栽培地帯
発生量 平年並
予報の根拠
① 8月末現在、発生量は平年並みである。
② 9月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。
- (2) うどんこ病
予報内容
発生地方 県下カキ栽培地帯
発生量 少ない
予報の根拠
① 8月末現在、発病葉率は0.8%（平年13.7%）で平年に比べて少ない。
② 9月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。
- (3) カメムシ類
予報内容
発生地方 県下カキ栽培地帯
発生量 平年並～やや多い
予報の根拠
① 予察灯（出雲市）での8月下旬までのカメムシ類の誘殺数は平年並みである。
② 8月末現在、巡回調査での被害果率は0.7%（平年5.6%）とやや少ない。
③ 9月の気象は本種の発生に助長的である。

C. 野菜

1) キャベツ

- (1) 黒腐病
予報内容
発生地方 県下全域
発生量 平年並
予報の根拠
① 9月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 菌核病

予報内容

発生地方

県下全域

発生量

平年並

予報の根拠

① 9月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) アブラナ科野菜

(1) アブラムシ類

予報内容

発生地方

県下全域

発生量

平年並

予報の根拠

① 8月の黄色水盤への有翅虫の飛来量は平年並みである。

② 8月末現在、巡回調査による寄生株率はほぼ平年並みである。

③ 9月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) コナガ

予報内容

発生地方

県下全域

発生量

平年並

予報の根拠

① 8月末現在、巡回調査による寄生株率はほぼ平年並みである。

② 9月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) アオムシ

予報内容

発生地方

県下全域

発生量

平年並

予報の根拠

① 8月末現在、巡回調査による寄生株率はほぼ平年並みである。

② 9月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方

県下全域

発生量

やや少ない

予報の根拠

① フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺累積数は、県東部で平年比18.4%、県西部で71.7%とやや少ない。

② 8月末現在の巡回調査での寄生株率は0% (平年7.9%) で少ない。

③ 9月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

島根県病害虫防除所

(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ)

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL : 0853-22-6772

FAX : 0853-24-3342

ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/shimane/>